

## 資料2

# 厚生労働省のEBPM推進に係る有識者検証会 重点フォローアップ事業への支援・助言等について

みずほ情報総研株式会社  
社会政策コンサルティング部 雇用政策チーム

# 1. ロジックモデル点検を踏まえた重点フォローアップの実施

## 7～8月:ロジックモデル点検(40事業)

- 点検の基準：ロジックモデル点検結果コメントシートの点検結果について、「問題ない」レベルであることを到達基準とした(会計課長説明資料として活用可能か否かが基準)。
- 点検項目：以下の観点から点検を実施。なお、必須項目と推奨項目に分け、修正は必須項目を優先。
  - 1) ロジック
    - 観点1a：ロジックモデルの各要素項目が適切に記されているか
    - 観点1b：要素項目間の流れに論理的整合性があるか
  - 2) エビデンス
    - 観点2a：「施策の必要性」と「施策の妥当性」を示す証左としてエビデンスが適切に用いられているか  
また、アウトプットやアウトカムにおいて、定量的な指標の設定が適切にできているか
    - 観点2b：効果検証方法が適切に設定されているか。エビデンス創出に向けた事前設計(リサーチデザイン)が適切か  
※(出典) 第1回厚生労働省のEBPM推進に係る有識者検証会資料2より抜粋
- 点検の手段：ロジックモデル点検シートを基に、基本的には書面・メールによる点検を実施。

## 10～11月:重点フォローアップ(12事業)

- 点検の基準：「ロジックモデルとして模範的な記載であること」を到達基準とした。
- 点検項目：ロジックモデル点検時と同様の項目。ただし、名称は変更（※次頁参照）  
また、必須項目のみならず推奨項目も修正対象としてフィードバック等を行った。
- 点検の手段：施策担当者と1時間程度、対面によるフォローアップを実施。その後コメントシートに整理。

## (補足) ロジックモデル点検の項目と、重点フォローアップの項目の名称変更について

- 重点フォローアップの項目は、基本的にはロジックモデル点検項目と同じである。  
ただし、部局担当者の分かりやすさに配慮し、ロジックモデルの要素項目名に合わせた名称に変更している。

点検項目				重点フォローアップ項目		
ロジック	1a	<ul style="list-style-type: none"><li>ロジックモデルの各要素項目が適切に記されているか</li></ul>	→	ロジック	1	<ul style="list-style-type: none"><li>ロジックモデルの記載</li></ul>
	1b	<ul style="list-style-type: none"><li>要素項目間の流れに論理的整合性があるか</li></ul>	→		2	<ul style="list-style-type: none"><li>ロジックモデルの論理的整合性</li></ul>
エビデンス	2a	<ul style="list-style-type: none"><li>「施策の必要性」と「施策の妥当性」を示す証左としてエビデンスが適切に用いられているか</li><li>また、アウトプットやアウトカムにおいて、定量的な指標の設定が適切にできているか</li></ul>	↘	エビデンス	3	<ul style="list-style-type: none"><li>現状分析・課題の妥当性</li></ul>
					4	<ul style="list-style-type: none"><li>アクティビティの妥当性</li></ul>
	2b	<ul style="list-style-type: none"><li>効果検証方法が適切に設定されているか。エビデンス創出に向けた事前設計(リサーチデザイン)が適切か</li></ul>	→		5	<ul style="list-style-type: none"><li>アウトカム指標の妥当性</li></ul>
				効果検証	6	<ul style="list-style-type: none"><li>効果検証方法</li></ul>

## 2. 重点フォローアップにおける気づき等について

- 重点フォローアップの結果概要は以下のとおり。

項目			フォローアップにおける気づき
ロジック	1	ロジックモデルの記載	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ ほぼ全ての事業で各要素項目が一定程度の水準に達していた。</li> <li>✓ ただし、よりロジックを理解しやすくするため、課題の記載について、調査結果等による具体的なエビデンスの記載が必要な事業が散見された。</li> </ul>
	2	ロジックモデルの論理的整合性	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ ほぼ全ての事業で論理的整合性が一定程度の水準に達していた。</li> <li>✓ ただし、より論理的整合性の質を向上させるため、アウトプットやアウトカムには調査研究等で検討された結果に基づいた、より適切な指標の設定が必要な事業が散見された。</li> </ul>
エビデンス	3	現状分析・課題の妥当性	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ ほぼ全ての事業でエビデンスは一定程度の水準に達していた。</li> <li>✓ ただし、現状分析・課題の妥当性を示すエビデンスが存在しない事業も散見された。</li> </ul>
	4	アクティビティの妥当性	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ <u>現状分析、課題とアクティビティの流れにおいて因果関係が明確でない事業が多く見受けられた。</u></li> <li>✓ <u>※課題解決のために当該事業の必要性や妥当性の説明が不十分な事業が多く見受けられた。</u></li> </ul>
	5	アウトカム指標の妥当性	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ ほぼ全ての事業で現状分析からインパクトまでの論理的整合性の観点に鑑みて、アウトカム指標は一定程度の水準に達していた。</li> <li>✓ ただし、よりエビデンスの質を向上させるため、アウトカム指標について類似事業や過去事業、調査等の結果から、適切な目標基準や定量目標の設定が必要な事業が散見された。</li> </ul>
効果検証	6	効果検証方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ <u>アウトプットとアウトカムの流れにおいて因果関係が明確でない事業が多く見受けられた。</u></li> <li>✓ <u>※当該事業の実施により期待する効果が得られるという因果関係が明確でない事業が多く見受けられた。</u></li> <li>✓ ほぼ全ての事業で事務局による分析手法の提案にとどまっていた。また、必要なデータの取得が困難な事業も散見された。</li> <li>✓ <u>効果検証に必要な分析手法に向けたリサーチデザインについては介入群と対照群との比較分析の設計・準備が不十分な事業が多く見受けられた。</u>  ※対照群の設定が困難な場合、次善の策として、施策実施の前後比較による効果分析を行うことも考えられるが、その際、外部環境の影響を統制した検討について準備が不十分な事業が多く見受けられた。</li> </ul>